

建築研究所ニュース



平成22年 3月12日

建築研究所は、3月13日（土）から、チリの大地震で被災した建築物の診断の支援に3名を派遣します。

建築研究所は、チリで2月27日に発生した大地震に対して、3名の職員を、JICAによる地震被災建築物診断技術の専門家として、3月13日（土）から23日（火）までの11日間、派遣します。この派遣は、チリ国政府からの緊急の要請を日本政府が受けて、同国第2の都市コンセプション等の被災地における被災建築物診断の実施を支援する予定です。

加藤 博人 構造研究グループ主任研究員
向井 智久 国際地震工学センター主任研究員
田尻 清太郎 構造研究グループ研究員

また、建築研究所は、この派遣とは別に、3月12日（金）にチリから5名のJICA「防災計画」研修員を受け入れ、津波、建築物耐震、GISなどに関する講義を行うほか、情報交換する予定です。

なお、建築研究所国際地震工学センターは、1960年代以降、地震学及び地震工学に関する国際地震工学研修を行ってきており、チリからもカトリカ大学などから延べ42名を受け入れています。今回の派遣における現地受け入れ担当者は帰国研修生です。

今回のチリ地震とそれに伴う津波に関するwebページを、次のとおり、公開しております。

http://iisee.kenken.go.jp/special/20100227chile_ja.htm

（内容の問合せ先）

独立行政法人建築研究所
所属 企画部 国際研究協力参事
氏名 飯田直彦
電話 029-879-0631(直通)
E-mail bri@kenken.go.jp

☆ ご面倒ですが掲載の折には、その記録を留めるため、上記問い合わせ先へお知らせ下さい。